

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区北砂1-3-30
施設名	江東区小名木川保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

積み木

〈テーマの設定理由〉

日々の遊びの中で子どもたちが身近に触れ、楽しんでいる積み木遊びの活動時間や空間を広げる事で、更に十分に遊び込めると考えた。又、並べる、積むの動きを通して今まで以上に積み木の世界観を広げ入り込めるいい機会だと考え設定した。

2 活動スケジュール

【第1回目】
活動日：2024年11月12日
活動時間：9：50～11：15

【第2回目】
活動日：2024年12月17日
活動時間：10：00～11：15

【第3回目】
活動日：2025年2月5日
活動時間：10：50～11：30

【第4回目】
活動日：2025年2月25日
活動時間：10:40～11:30

【第5回目】
活動日：2025年3月21日
活動時間：9：45～11：30

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・レンガ積み木（22箱）・シフォン布・長積み木・ミニドール・シュライヒ・絵本
・ジュエル積み木・スケラ・レインボーアーチ・クリスタル積み木・半球積み木・ギザギザ積み木

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

日常的に遊んでいる積み木はどんな素材からできていて、どのようなイメージを持っているか、また遊び方を考えながら実際に触れていきながら探求していった。子どもたちが意見を出しやすいように活動時にクラスをグループに分けて少人数で活動する日も作った。人数を変えながら設定することで、遊びの様子も様々で、一人で遊ぶ時、友だちとイメージを共有しながら遊ぶ時など様々な積み木の使い方で思い思いに表現していく様子が見られた。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

- ・Kが洋服を袋にして積み木をいれ積みやすくしている様子を見てHがやってきた。普段一緒に遊ぶことはあまりない2人だが、イメージを共有しながらタワーを作る事を楽しみながら遊んでいた。KがHに「積み木をここ（洋服の袋）に入れると使いやすいよ」と伝える事でHも真似していた。以前手が届かなくなり困っている姿があったので椅子などが使えることを提案した事を覚えており、手の届かない所まで積めると椅子→ピアノ椅子→巧技台の流れで踏み台を使いたい気持ちを保育者に伝える事が出来ていた。遊びがより展開できるように何が今必要なのか子どもたちに問いかけ、出た回答の物を保育者が準備した。
- ・ジュエル積み木の使い方、約束事を子ども達と一緒に考えて活動を行ったが朝の時間から使っていた子は約束通りに他児へ貸す事が難しかった。本児の気持ちを受け止め保育者が提案し【ジュエル積み木屋さん】が誕生した事で使いたい数を購入しながら遊びが進み、やりとりを楽しみながら活動していた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・5回のすくわくの活動を通して、はじめは積み木に興味を示さなかった子どもたちも徐々に遊び方を覚えて、イメージした物を形にする事ができるようになっている事に気が付いた。回数を重ねていく事で一人で遊んでいた子も友だちと一緒に活動していくようになったりと積み木の活動を通して遊びの幅と友だちの関係性も広がった事に気が付いた。
- ・職員全体へ活動内容を共有した。積み木遊びの環境設定、遊びの展開の仕方、保育者の援助の仕方を共有した後、積み木遊びを続けて遊ぶための環境設定についてディスカッションを行なった。その結果、保育室を積み木の世界とし、生活を他のスペースで過ごしたことで、積み木遊びを継続して行うことができた。今後は、積み木の世界をさらに広げることを探求していきたい。